

FIT **SHUTTLE**

Press Information 2011.6.16

コンパクトを革新せよ。

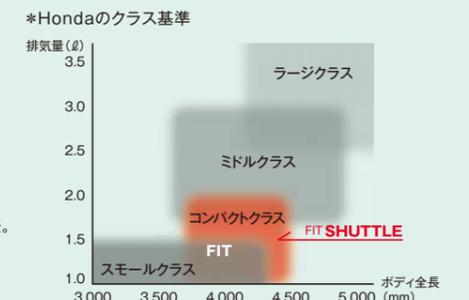
いま、コンパクトカーがあらためて注目されているように感じます。
事実、実用性や環境性能を重視する人が増え、
クルマもより機能的に、より低燃費に進化してきました。
しかし私たちは、暮らしに便利な手軽さや合理性だけがコンパクトカーの要件だとは考えません。
コンパクトカーであっても、暮らしを豊かに広げるクルマを創りたい。
身近な存在だけど使うたびに満足できる、いわば上手に贅沢できるクルマを届けたい。
そんな思いから、今回私たちは「コンパクトカーの革新」にチャレンジしました。
Hondaがスモールクラス*で飛躍的に進化させてきた「フィット」の思想と技術を、
コンパクトクラス*に投入。扱いやすいボディサイズでありながら
従来の常識を超える広さ、使いやすさ、経済性、さらには見て触れる質感や移動の快適性といった
価値を満たした、新しいスタイルのコンパクトカーを完成させました。
私たちHondaの自信作、「フィット シャトル」。
いまの時代に、これからの時代に、積極的に選んでいただける一台であると確信しています。

開発責任者 人見康平



人見 康平 (ひとみ こうへい)
(株)本田技術研究所 主任研究員

1984年、(株)本田技術研究所入社。
ドア、外装まわり設計を経て、
1999年アクティ/バモスのボディ・外装PL、
2002年ザッツのLPL代行、
2004年エリシオンのLPL代行を担当。
2007年フィットのLPLを務め、
2010年フィットMMC/フィット ハイブリッドのLPLを歴任。
今回、引き続きフィット シャトルのLPLを務める。
趣味はドライブ、旅行。
愛車はフィット(07年モデル)2台、S800。



Contents

開発にあたって	2	パッケージング	7	エクステリアデザイン	15	福祉車両	21
コンセプト	3	ユーティリティ	9	インテリアデザイン	17	安全性能	22
テクノロジーダイジェスト	5	パワートレイン	11	シャシー/ボディ	19	環境性能	22
Hondaのハイブリッドカー展開	5	インターナビ	14	快適装備	21	装備・諸元	23

独自の技術で、 コンパクトカーの常識を超えていく。

暮らしをもっと楽しく豊かに広げていけるコンパクトカー。

その実現のためには、これまでの常識を一新させる必要があると考えました。

運転しやすいボディサイズや合理的な実用性だけではなく、

コンパクトカーの枠を超えた、可能性や喜びに満ちたクルマでなければなりません。

目指したのは、コンパクトカーの常識を超える価値の創造です。

Hondaの「M・M思想」*1に基づきフィットで構築したパッケージングテクノロジー「センタータンクレイアウト」を核に、ハイブリッド車にはHonda独自の軽量コンパクトなシステム「エンジン+IMA(インテグレートッド・モーター・アシスト)」を採用することで、まずは床面が低く広々とした空間を確保。そのうえで、カーライフが自由に広がる使いやすさ、気兼ねなくドライブできる燃費性能、さらには自信と誇りを持てる質感といった、気持ちや行動範囲に大きなゆとりを生む機能や性能に徹底してこだわりました。

コンパクトクラスの想像を超える広さ・使い勝手

ショッピングやレジャー、さらにはもっと何かできそうな、余裕で積める荷室を確保し、さまざまなシートアレンジや収納スペースの工夫によって、圧倒的な使い勝手を実現。そのうえで、こうした広さと機能性を予感させる新しいフォルムで包み込みました。

スモールクラスの経済性

「IMA」を採用することで、空間を犠牲にすることなく軽快な走りとともにJC08モード走行燃料消費率25.0km/ℓ*2/10・15モード走行燃料消費率30.0km/ℓ*2の低燃費を実現したハイブリッド車をラインアップ。ガソリンエンジン車(FF車)は1.5ℓ i-VTECやCVTの採用により、クラス*3トップレベルのJC08モード走行燃料消費率18.6km/ℓ*2/10・15モード走行燃料消費率20.0km/ℓ*2を達成。ともにフィット同等の燃費性能を実現しています。

ミドルクラスの上質・快適

大切な人との移動をいっそう快適にするために、ミドルセダンのアコードクラスに匹敵する静粛性や安定した乗り心地を実現。さらに、スタイリングには堂々とした車格感を、インテリアには落ち着きのある上質な風合いを持たせるなど、見て・触れて・走って感じる質感にこだわりました。

ゆったり乗れて、しかも荷室を多彩に使いこなせる。

ハイブリッドカーであっても、思いのままに荷物を積める。

優れた経済性を発揮しながら、快適さや上質さも得られる。

そんな、コンパクトカーでありながら、コンパクトクラスを超える価値をスマートにバランスさせた、

“上手に贅沢”するクルマ(フィット シャトル)。これからの新しい基準と呼べる、Hondaの新たな回答です。

コンパクトクラスの想像を超える
広さ・使い勝手

余裕で積める広さに
多彩な工夫を施した
荷室の使い勝手。

コンパクトカーの常識を超える価値の創造

センタータンクレイアウト
軽量コンパクトな「IMA」
(ハイブリッド車)

スモールクラスの
経済性

ハイブリッド車も
ガソリンエンジン車も
フィット同等の低燃費を実現。

ミドルクラス
の上質・快適

アコードクラスに匹敵する
静粛性や乗り心地と
クラスを超えた質感。



上手に贅沢するクルマ。

FIT SHUTTLE

*1 「M・M思想」とは、「人のためのスペースは最大に、メカニズムは最小に(マン・マキシマム/メカ・ミニマム)」という、「人を中心」の発想で取り組むクルマづくりの基本思想。
*2 国土交通省審査値 詳細は、各技術説明ページおよびP24の「主要諸元」をご覧ください。
*3 1.5ℓクラスのステーションワゴンとして(2011年6月現在 Honda調べ)

ネーミングの由来

“人の喜びにフィットする”クルマづくりの思想をフィットから踏襲しながら、「人も荷物も、日常とは少し異なる夢の場所へと快適に、安全に、先進の技術で運んでくれる」というイメージを、宇宙を旅するスペースシャトルになぞらえてネーミングしました。

コンパクトカーの新基準を創造するフィット シャトルのテクノロジー。

■各装備・仕様の詳細は、各技術説明ページおよびP23-24の「主要装備」「主要諸元」をご覧ください。

コンパクトクラスの想像を超える広さ・使い勝手

[パッケージング] P7

- センタータンクレイアウトによる広々とした居住空間と大容量のラゲッジスペース
- ラゲッジスペースの使い勝手を高める低い掃き出しフロア
- 軽量・コンパクトなIMAにより、ハイブリッド車も
ガソリンエンジン車と同等の居住性と積載性(床スペース)を確保

[ユーティリティ] P9

- 大容量のラゲッジルームアンダーボックス
- ラゲッジスペースを多彩にアレンジできるリバーシブルフロアボード
- リアシートのダイブダウン／チップアップによる多彩なシートアレンジ

スモールクラスの経済性

[パワートレイン] P11

- 1.3ℓ+IMAのハイブリッド車と1.5ℓのガソリンエンジン車をラインアップ
- スモールクラスのフィット／フィット ハイブリッドと同等の燃費性能
- 実用燃費向上を支援するECONモード／エコアシスト

ミドルクラスの上質・快適

[エクステリアデザイン] P15

- 流麗なフォルムに堂々とした存在感を表現

[インテリアデザイン] P17

- レザー調のコンビネーションシートや随所に施した加飾パーツ

[シャシー／ボディ] P19

- 上質な乗り心地を実現するサスペンション
- ミドルセダンレベルの静粛性を目指した防音処理

インターナビ P14

- ガソリンエンジン車にもリンクアップフリー対応の
Honda HDDインターナビシステムを設定

快適装備 P21

- バックモニター付オーディオなど、
便利・快適・安心をもたらす機能を充実

福祉車両 P21

- ハイブリッド車にも助手席回転シート車を設定

安全性能 P22

- VSAを全タイプのFF車に標準装備するなど、より高い安全性能を追求

環境性能 P22

- 低燃費化、排出ガスのクリーン化をはじめとした高水準の環境性能

Hondaのハイブリッドカー展開

ハイブリッドをもっと自由に。

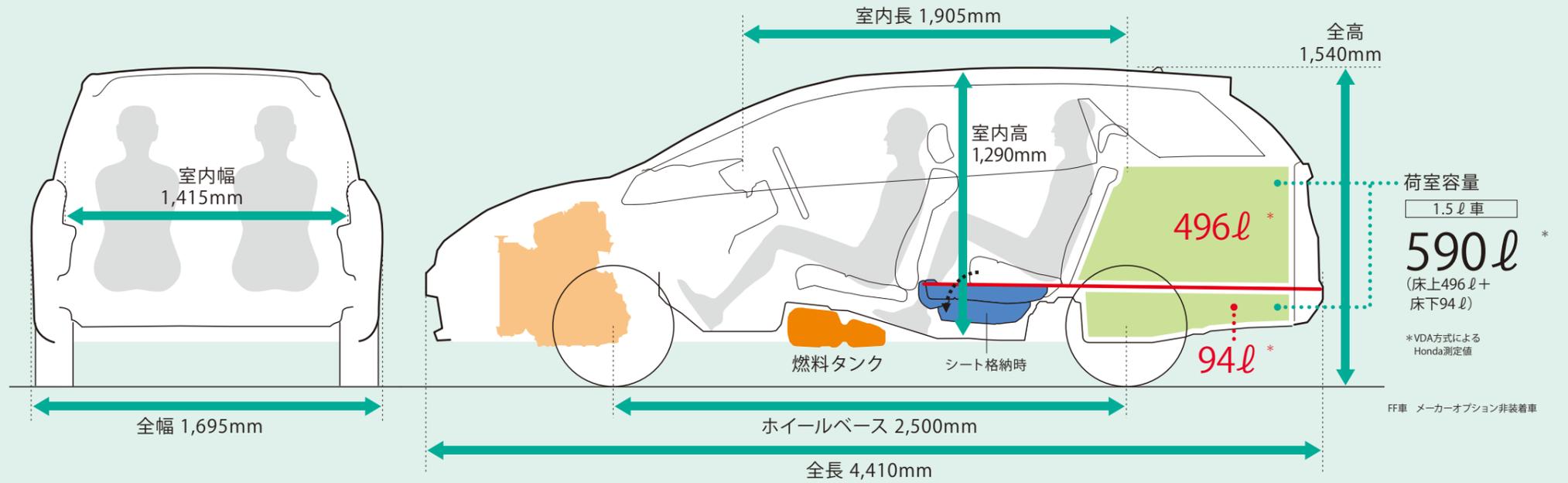
Hondaはライフスタイルに応えるハイブリッドカーを展開していきます。

Hondaは、モビリティの楽しさと優れた環境性能をあわせ持つクルマづくりのひとつとして、ハイブリッドカーを多機種にわたって展開しています。インサイトやCR-Zといったハイブリッド専用車だけにとどまらず、まずは乗る人の好みやライフスタイルにマッチしたクルマであり、そのうえで燃費性能・環境性能により優れたハイブリッドカーも選択できることが理想と考え、昨年、フィット ハイブリッドを開発しました。そして今回、クルマの用途や行動範囲をより広げられる大きな荷室を持つフィット シャトルに、ハイブリッドシステムを搭載。Honda独自のシステム「エンジン+IMA(インテグレートッド・モーター・アシスト)」の軽量・コンパクトな利点を活かすとともに、優れたパッケージング技術により、広々とした荷室を犠牲にすることのないハイブリッドカーを実現しました。日常はもちろん、休日の買い物や長距離のレジャーまで、より多彩に、もっと自由に使いこなせるハイブリッドカー、フィット シャトル ハイブリッド。Hondaは今後もハイブリッドシリーズをさらに充実させることで、より多くの人のさまざまなライフスタイルに応えていくとともに、環境負荷の少ないクルマづくりを進めることで、低炭素社会へのさらなる貢献を目指していきます。



コンパクトなボディに、 ゆったり乗れる空間と 大容量のラゲッジスペース。

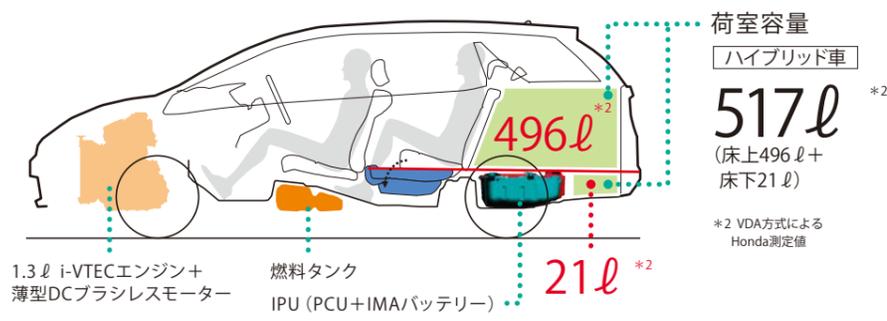
毎日ストレスなく運転できる扱いやすいボディサイズに、さまざまなシーンで活用できる広さと使い勝手を求めました。Honda独自の高効率なパッケージング技術、センタータンクレイアウトにより、ゆったりとくつろげる居住空間を確保。リアには低床設計による大容量の荷室空間と優れた使い勝手を実現し、ハイブリッド車も同等の積載性(床スペース)を備えました。また、テールエンドまでゆとりを感じる伸びやかさとともに、取り回し性を考慮しながらフロントノーズの存在感を持たせることで、コンパクトでありながら車格感のある独自のフォルムを完成しています。



ガソリンエンジン車と同等の居住性、積載性(床スペース)を確保した、ハイブリッド・ワゴンパッケージング。

ハイブリッド車には、シンプルな構成で軽量・コンパクトなIMA(インテグレートド・モーター・アシスト)を搭載。IPU*1を、荷室の床面を高くすることなく床下にすっきりと収め、1.5ℓ車と同等の居住性やシートアレンジ、高い積載性を実現。センタータンクレイアウトとIMAの組み合わせにより、これまでにないスペース・ユーティリティを持つハイブリッドカーを完成しました。

*1 インテリジェントパワーユニット、PCU(パワーコントロールユニット)とIMA(バッテリー)で構成



IPUまわりのレイアウトを工夫し、低くフラットなラゲッジスペースを実現。

ステーションワゴンの最も重要な資質のひとつであるラゲッジスペース。ハイブリッドカーであっても最大限の広さと使いやすさを求め、IPUの冷却用吸気ダクトに工夫を凝らしました。まず、床面やサイドライニングがフラットになるよう、ダクトの断面形状を扁平化。このままでは、最も効率のよい円断面に比べて圧力損失が増加するため、CAE*によるシミュレーションを繰り返し行い、形状・レイアウトを最適化。幅を広げ、ストレート化することで必要な冷却性能を確保しました。また、ダクトの結合部を変更するなど細部にまで工夫を凝らし、低く、隅々までフラットなラゲッジスペースを実現しています。*コンピュータによる強度・剛性・流体解析



前後席ともにゆとりある空間設計。

高度なパッケージング技術により、広い室内を確保したうえで、さらなるゆとりを求めてさまざまな工夫を施しました。ドアライニングを凹面形状とすることで横方向のゆとりを広げ、フロントシートバック裏の形状を工夫することにより、後席乗員のひざまわりスペースを拡大。ルーフの長いワゴンボディは後席においても余裕あるヘッドクリアランスを生み出しました。また、より前方に配置したフロントウィンドウが、開放感を高めています。



低床設計による590ℓ*1の大容量ラゲッジスペース。ハイブリッド車も517ℓを実現。

5名乗車時で荷室長は1,020mm、荷室容量は床上と床下を合わせて590ℓ*1を確保した大容量ラゲッジスペース。後席をダイブダウンさせて低くフラットにスペースを広げれば、荷室長は最大2,000mm*2、荷室容量は最大1,165ℓ*3まで拡大します。なお、ハイブリッド車においても、同一の床上寸法・容量を実現しています。数値はHonda測定値 荷室容量はVDA方式による *1 1.5ℓ車(FF) *2 助手席スライド最前時 *3 2名乗車時

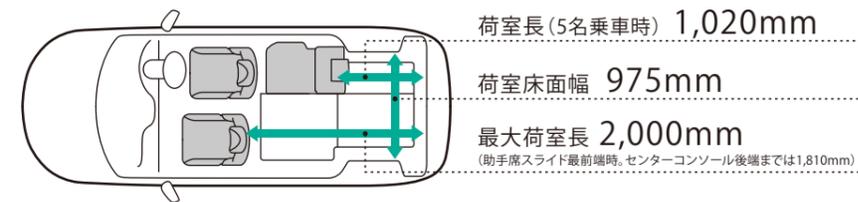
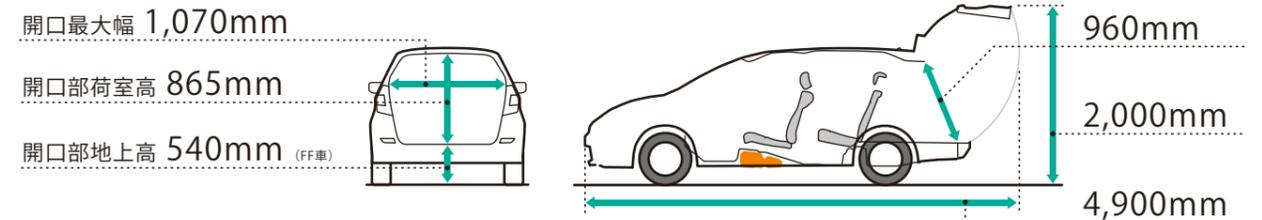


Photo: HYBRID・スマートセレクション メーカーオプション装着車

ラゲッジスペースの使い勝手を高める、低い掃き出しフロアと少ないスペースで開くテールゲート。

センタータンクレイアウトが生み出す低床設計によって、1.5ℓ車、ハイブリッド車ともに荷室床面地上高を540mm(FF車)に抑えました。さらに、荷室床面と開口部との段差をなくした掃き出しフロアとし、優れた使い勝手を実現。開口部の荷室高は865mm、開口最大幅は

1,070mmを確保し、大きな荷物の積み降ろしも楽に行えます。また、狭い場所でのテールゲート開閉を考慮し、リアウィンドウの傾斜を強めてヒンジをより前方に配置。開閉に必要なスペースを抑えるとともに、積み込みやすさにも貢献しています。数値はHonda測定値



最小回転半径4.9m*の優れた取り回し性。

エンジンなどのメカニズムのコンパクト設計によって十分なタイヤ切れ角を確保し、最小回転半径4.9m*を実現。フロントの左右コーナーを絞り込んだボディ形状や広々とした視界、低速走行時に軽い力でステアリング操作できるEPS(電動パワーステアリング)と合わせ、優れた取り回し性を獲得しています。また、FF車の全高は1,540mmで一般的な立体駐車場(高さ制限1,550mm)に入庫可能です。

*1.5ℓ車(FF)、1.5ℓ車(4WD)、ハイブリッド車は5.1m



広々空間をさらに大きく活用できるシートアレンジ&ラゲッジスペースアレンジ。

広い空間をさらに楽しく、多彩に使いこなせるように、ラゲッジスペースの使い勝手を高める工夫を凝らしました。床下に大容量の空間をつくり出すとともに、床上と床下を仕切るフロアボード^(1.5ℓ車)の構造を工夫。ラゲッジスペースの多彩なアレンジを実現し、シートアレンジと合わせてこれまでになく優れたユーティリティーを獲得しました。



Photo:15X メーカーオプション装着車

写真の自転車は26インチ

ラゲッジスペースをさらに大きく使える、大容量のラゲッジルームアンダーボックス。

応急パンク修理キットを採用してスペアタイヤレスとするとともに、ボディフロアの骨格構造を工夫したことで、荷室床下に大容量のスペースをつくり出しました。1.5ℓのFF車では、幅610mm^{*1}、奥行775mm^{*1}、高さ235mmの使いやすい箱形状で、94ℓの大容量を実現。機内持ち込みサイズのキャリーバッグなどが収納できるほか、リッドを開ければ1,200mmもの高さのスペースとして利用でき、27インチの自転車^{*2}をハンドルやタイヤを外すことなく立てた状態で積み込めます。なお、4WD車は50ℓ、ハイブリッド車は21ℓの容量を確保しています。

数値はHonda測定値 容量はVDA方式による *1 上面部で測定。底面部は、幅525mm、奥行635mm *2 自転車の形状によっては、インチサイズが同じでも積載できない場合があります。

1.5ℓ車(FF) 容量 94ℓ	 Photo:15X
1.5ℓ車(4WD) 容量 50ℓ	
ハイブリッド車 容量 21ℓ	 Photo:HYBRID 容量はVDA方式によるHonda測定値

アンダーボックスを前後に仕切れる、可動セパレーター。

収納する荷物に応じて、94ℓの大容量スペースを前後に3段階に仕切れる可動式のセパレーターを採用。使用しないときは、最奥の壁面に収納できます。 容量はVDA方式によるHonda測定値



用途に応じて使い分けられる、リバーシブルマット。

ラゲッジルームアンダーボックスの底に表と裏とで素材の異なるリバーシブルマットを設置。片側は上質なカーペット素材、もう一方は汚れを拭き取りやすい素材を採用し、用途に応じて使い分けられます。



大きい物、長い物、背の高い物などにも自在に対応するシートアレンジ。

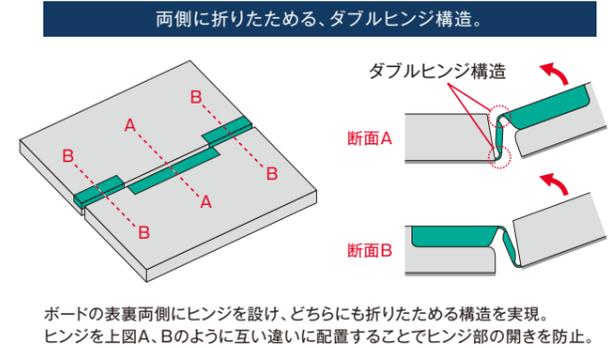
センタータンクレイアウトによるリアシート下のスペースを活かし、空間を自在にアレンジできます。リアシートはワンアクションでダイブダウンし、ラゲッジスペースが低くフラットに拡大。助手席側には最長で2,700mm^{*1}

もの長さの荷物を積載できます。また、リアシートをチップアップさせると高さ1,290mm^{*2}のスペースが出現。これらはすべてハイブリッド車においても同様に利用可能です。 *1 Honda測定値 *2 スカイルーフ装着車は1,265mm

<p>ユーティリティー・モード</p> <p>リアシートを両側ダイブダウンさせるとフラットな大空間に。大きな荷物に対応。</p>	<p>ロング・モード</p> <p>リアシートのダイブダウンに加え、助手席をフルリクライニングさせれば、長い荷物に対応。</p>	<p>トール・モード</p> <p>リアシートをチップアップさせれば、背の高い荷物に対応。ラゲッジスペースとの積み分けも可能。</p>
--	--	---

世界初*のダブルヒンジ構造により、ラゲッジスペースの多彩なアレンジを可能としたリバーシブルフロアボード。

大容量のラゲッジルームアンダーボックスを最大限に活用するために、新構造のフロアボードを採用しました。片側はカーペット素材とし、もう一方を汚れても簡単に拭き取れるワイパブル仕様としたうえで、両側に折りたためる世界初*のダブルヒンジ構造を採用。これにより、どちらの面を上にした状態でも3通りのアレンジを可能とし、可動セパレーター^(FF車)やリバーシブルマットと合わせて多彩な使い方に対応します。 *2011年6月現在 Honda調べ



<p>セパレート・モード</p> <p>ボードのピンをライニングの溝に固定</p> <p>後ろ側半分を開き、買物袋などを倒れにくく収納。ボードを開けた状態で固定できるロック構造を採用。</p>	<p>トール・モード</p> <p>ボードを折りたたむと、高さ1,200mmの空間に。ベビーカーなど背の高い荷物に対応。数値はHonda測定値</p>	<p>フル・モード</p> <p>倒したリアシート背面にボードを反転。ワイパブル面を活用し、自転車や汚れた物などの積載にも対応。</p> <p>Photo-イラスト:1.5ℓ車(FF)</p>
--	---	--

ボードとマットのワイパブル面を活用すれば、汚れを気にせずにさまざまな荷物を積載可能。

リバーシブルフロアマットはどちらの面を上にした状態でも同様のアレンジができるため、リバーシブルマットと合わせ、汚れた物や濡れた物などが接する個所がワイパブル面となるようにすることで、自転車などの大きな荷物や高さのある荷物も汚れを気にせずに積載できます。



さらに便利に使えるラゲッジスペースまわりのユーティリティー装備。

タイダウンフック(4カ所)	ラゲッジルームサイドポケット	コンビニフック(2カ所)	ラゲッジルームランプ	トノカバー(タイプ別設定)
---------------	----------------	--------------	------------	---------------

使い勝手を追求した収納・便利装備。

エアコン風による温度調整機能を備えたアップグレードボックスやフロントコンソール照明など、使い勝手に優れた装備を充実させました。

アップグレードボックス・エアコン連動温度調整機能(タイプ別設定)	フロントコンソールボックス(コンソールライト付)*タイプ別設定	センターコンソールボックス(リッド付)(タイプ別設定)
----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------

小物類は撮影のために用意したものです

クラス^{*1}トップレベルの低燃費を実現し、 上質な加速フィールも獲得。

毎日気兼ねなく使っていただけるように、燃費性能を徹底的に突き詰めました。エンジンのフリクションや走行抵抗など、細部にわたってエネルギーロスを徹底して低減。スモールカーのフィットと同等^{*2}の低燃費を実現しました。また、加速フィールにもこだわり、CVTの変速制御をきめ細かくチューニング^{*3}しています。

*1 1.5ℓクラスのステーションワゴンとして(2011年6月現在 Honda調べ)
*2 1.5ℓ車/ハイブリッド車同士での比較 *3 1.5ℓ車(FF)

JC08モード走行燃料消費率 (国土交通省審査値)	10・15モード走行燃料消費率 (国土交通省審査値)
25.0 km/ℓ ハイブリッド車 ※HYBRID-CIは26.0km/ℓ。ただし装着するメーカーオプションによって異なる場合があります。	30.0 km/ℓ ハイブリッド車
18.6 km/ℓ 1.5ℓ車(FF) ※16インチアルミホイール装着車は18.0km/ℓ	20.0 km/ℓ 1.5ℓ車(FF) ※16インチアルミホイール装着車は19.2km/ℓ

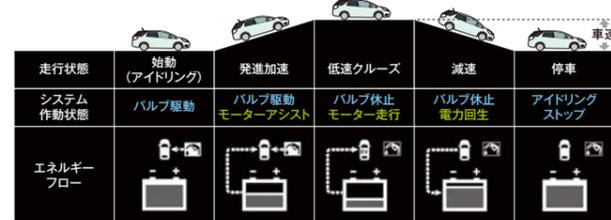
低速から力強い走りと高水準の環境性能を両立した、1.3ℓ i-VTECエンジン+IMA。(ハイブリッド車)

「主動力のエンジン」と「補助動力のモーター」によるHonda独自のハイブリッドシステム。エンジンには、減速時に全気筒のバルブ作動を休止することでポンピングロスを低減し、電力回生効率を高めるVCM^{*}搭載の1.3ℓ i-VTECエンジンを採用。これに、軽量・コンパクト・高効率なIMAを組み合わせました。モーターのみでの走行やアイドルリングストップ機構に加え、エネルギーロスの徹底した低減により、JC08モード走行燃料消費率25.0km/ℓ^{*2}/10・15モード走行燃料消費率30.0km/ℓ^{*2}の低燃費を達成。同時に、低速域から強力なトルクを発揮するモーターアシストによって、力強い走りも実現しています。

*1 ハリアブル・リシリンダー・マネージメント
*2 国土交通省審査値 HYBRID-CのJC08モード走行燃料消費率は26.0km/ℓ。ただし装着するメーカーオプションによって異なる場合があります。



■Hondaハイブリッドシステム作動イメージ



■1.3ℓ i-VTECエンジン+IMA性能

エンジン	最高出力(ネット値 ^{*3})	65kW[88PS]/5,800rpm
	最大トルク(ネット値 ^{*3})	121N・m[12.3kgf・m]/4,500rpm
モーター	最高出力	10kW[14PS]/1,500rpm
	最大トルク	78N・m[8.0kgf・m]/1,000rpm ※エンジン始動時:92N・m[9.4kgf・m]/500rpm
エンジン + モーター (Honda測定値)	最高出力	72kW[98PS]/5,800rpm
	最大トルク	167N・m[17.0kgf・m]/1,000~1,500rpm
JC08モード走行燃料消費率 (国土交通省審査値)	25.0km/ℓ (HYBRID) 26.0km/ℓ (HYBRID-C ^{*4})	
10・15モード走行燃料消費率 (国土交通省審査値)	30.0km/ℓ	
[平成22年度燃費基準+25%達成車]		
国土交通省「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定		

*3 「ネット」とはエンジンを車両に搭載した状態とほぼ同条件で測定したものです。
*4 i-サイドエアバッグシステム+サイドカーテンエアバッグシステム装着車は25.0km/ℓ

クラス^{*1}トップレベルの低燃費とパワーを達成した、1.5ℓ i-VTECエンジン。(1.5ℓ車)

吸排気効率に優れた1気筒4バルブ方式とし、低回転域と高回転域で吸気側のバルブタイミングとリフト量を切り替えるVTEC機構を採用。クラス^{*1}トップレベルの出力と全域でトルクフルな特性を発揮し、ゆとりある走りを生み出します。また、高い燃焼効率に加えて徹底したフリクション低減処理により、FF車ではJC08モード走行燃料消費率18.6km/ℓ^{*2}/10・15モード走行燃料消費率20.0km/ℓ^{*2}の低燃費を実現しています。

*1 1.5ℓクラスのステーションワゴンとして(2011年6月現在 Honda調べ)
*2 国土交通省審査値 装着するメーカーオプションによって異なる場合があります。



■1.5ℓ i-VTECエンジン性能

最高出力(ネット値 ^{*3})	88kW[120PS]/6,600rpm
最大トルク(ネット値 ^{*3})	145N・m[14.8kgf・m]/4,800rpm
JC08モード走行燃料消費率 (国土交通省審査値)	18.6km/ℓ (FF車) ※16インチアルミホイール装着車は18.0km/ℓ 14.6km/ℓ (4WD車)
10・15モード走行燃料消費率 (国土交通省審査値)	20.0km/ℓ (FF車) ※16インチアルミホイール装着車は19.2km/ℓ 16.4km/ℓ (4WD車)
[平成22年度燃費基準+25%達成車] (FF車 ^{*4}) [平成22年度燃費基準達成車] (4WD車)	
国土交通省「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定	

*3 「ネット」とはエンジンを車両に搭載した状態とほぼ同条件で測定したものです。
*4 16インチアルミホイール装着車は「平成22年度燃費基準+20%達成車」、取得税・重量税の軽減率は50%となります。

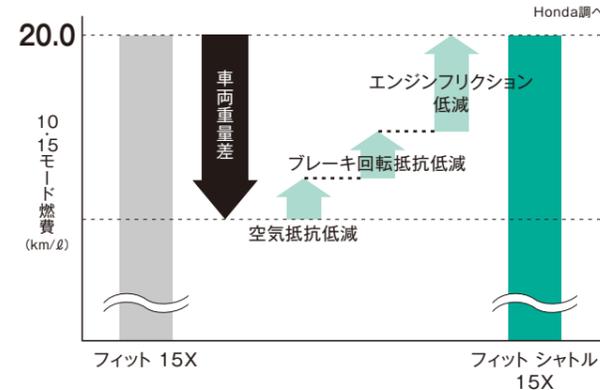
エンジンフリクションや走行抵抗を徹底して低減し、 スモールクラスのフィット/フィット ハイブリッド同等の燃費性能を達成。

フィット シャトルより全長が510mm短いフィット 15X/フィット ハイブリッドと同等の燃費性能を達成するために、さまざまな抵抗を徹底して減らしました。

<1.5ℓ車>

エンジンでは、ピストンスカートの表面コーティングにより油膜保持性に優れた新パターンを採用し、クランクシャフトオイルシールにはテフロンコーティングを施してエンジンフリクションを低減しました。車体まわりでは、空力特性を考慮したボディ形状に加え、ボディ下面に空力パーツを広範囲に配置して空気抵抗を低減。フロントブレーキキャリパーにはパッドリターン springs を設置(FF車)し、ブレーキ非作動時の回転抵抗を低減しています。

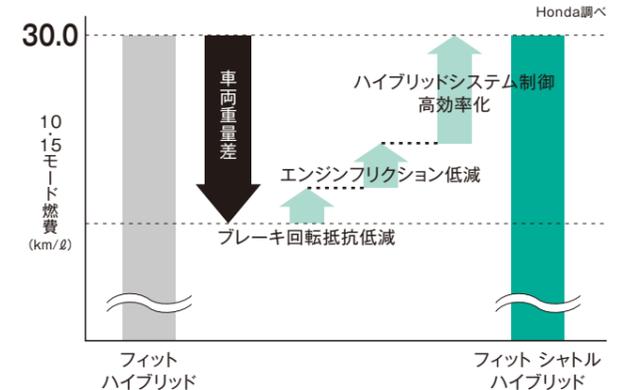
■低燃費化達成説明図(1.5ℓ車(FF))



<ハイブリッド車>

エンジンのフリクション低減やフロントブレーキの回転抵抗低減に加え、ハイブリッドシステムの制御をさらに高効率化しました。モーターのみでの走行時にはエンジンは作動しないため、燃料ポンプと点火システムの作動を停止し、エネルギーロスを低減。これらにより、高いスペース・ユーティリティを持つワゴンボディながら、フィット ハイブリッド同等の燃費性能を達成しています。

■低燃費化達成説明図(ハイブリッド車)



フィット 15X/フィット ハイブリッドに対する新採用技術

エンジンフリクション低減

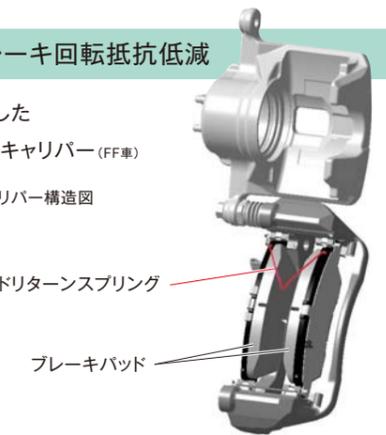
- 新パターンのピストンパターンコーティング*
*1.5ℓ車に新採用(フィット ハイブリッドには採用済)
- テフロンコーティングを施したクランクシャフトオイルシール

■ピストンパターンコーティング



ブレーキ回転抵抗低減

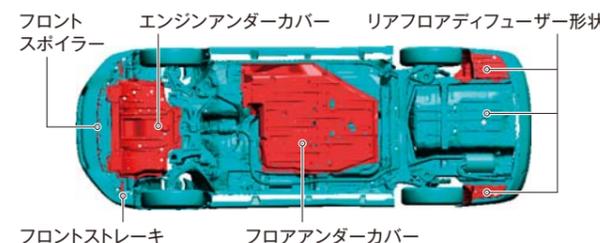
- 回転抵抗を低減したフロントブレーキキャリパー(FF車)
- フロントブレーキキャリパー構造図



空気抵抗低減

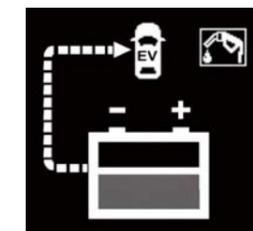
- 空力特性に優れたフロントバンパー/テールゲートスポイラー
- ボディ下面に空力パーツ配置* *1.5ℓ車に新採用(フィット ハイブリッドには採用済)

■ボディ下面空力パーツ配置図(FF車)



ハイブリッドシステム制御高効率化

- モーター走行時の燃料ポンプ停止制御を新採用
- モーター走行時の点火システム停止制御を新採用



スムーズな発進加速と低燃費を引き出すCVT。(FF車)

変速ショックのないスムーズな加速をもたらすCVT。1.5ℓ車には力強い発進を実現するトルクコンバーターを採用しました。ハイレシ

オ設定に加え、高効率・低フリクション化の追求や、きめ細かなロックアップ制御などにより、低燃費にも貢献します。

〈1.5ℓ車のセッティング〉

常用されるスロットル中開度域において、CVTの変速設定をレスポンスのよい加速フィールが得られるようセッティング。高開度域では、急激な変速を抑えるセッティングとし、上質な加速フィールを演出しています。

〈ハイブリッド車のセッティング〉

モーターアシストとDBW(ドライブ・バイ・ワイヤ)の協調をより緻密に制御。発進時の変速特性をなめらかにすることで、いっそうスムーズな発進加速を実現しています。

4WDの走破性を引き出し、低燃費にも貢献する、5速AT。(4WD車) ※4WD車は、2011年8月生産開始予定

4WD性能を最大限に発揮する5速オートマチックトランスミッション。リニアソレノイドによるダイレクト制御やDBWとの協調制御により、スムーズな発進性能と変速ショックの少ないなめらかな加速、さらには高速クルーズ時の優れた燃費が得られます。なお、4WD機構には、

通常はほぼFF状態で走行し、発進・加速時や雪道などの走行状況に応じて、後輪にも適切な駆動力を配分するリアルタイム4WDシステムを採用しています。

実用燃費向上を支援するECONモード。

インストルメントパネルに設置したECONスイッチを押すと、エンジンではスロットルバルブ開度を抑えるようにDBWを制御。それに協調してCVTやATはハイレシオ設定となり、エアコンも省エネ運転となります。なおECONモード時には、クルーズコントロールも省エネ運転となるように作動します。



ECONモードをはじめ低燃費運転を楽しく支援するエコアシスト。(ハイブリッド車)

エンジンやトランスミッションなどを燃費優先に制御する「ECONモード」や、エコ運転度をリアルタイムに把握できる「コーチング

機能」、エコ運転度を採点・アドバイスする「ティーチング機能」を採用。ドライバーの技術や意識による低燃費運転を支援します。

ECONモード

パワートレインなどを燃費優先に制御

- エンジンの出力制御
- CVTの変速比制御
- エアコンの省エネ運転
- アイドリングストップ領域の拡大
- IMAの回生量増加

コーチング機能

エコ運転度をリアルタイムに表示

- アンビエントメーター

理想的な低燃費走行に近くなるほど、照明色がブルーからグリーンに変化
- エコドライバー

加速・減速の状況をリアルタイム表示。クリアゾーンにバーが収まればエコ運転

ティーチング機能

エコ運転度を採点・アドバイス

- ECOスコア

リーフ(葉)のアイコンでスコア表示。スコアを積み重ねるにつれてステージが3段階でアップ
- アドバイス機能

(Honda HDDインターナビシステム装着車)
ナビ画面に、エコ運転度採点の履歴や採点内容の詳細、燃費向上アドバイスなどを表示

メーター類は撮影のため点灯

よりスムーズでエコなドライブを支援する先進機能。

Honda HDDインターナビシステム+

リンクアップフリー(専用通信機器+通信費無料*1)(タイプ別設定)

タッチパネル式の7インチワイドディスプレイにHDDを採用した最新鋭のナビゲーションシステム。リンクアップフリーに対応した専用通信機器を備えたほか、ナビゲーションに連動するETC機能も採用。オーディオ&ビジュアル機能も充実しています。さらにハイブリッド車は、エコドライブをサポートするティーチング機能(アドバイス機能)も備えています。



画面はハメコミ合成

ナビゲーション機能	7インチワイドディスプレイ	タッチパネル	VICS*2FM多重レシーバー	カラーリアカメラ	リンクアップフリー専用通信機器(3G)	ナビゲーション連動ETC	Bluetooth®対応ハンズフリーテレホン*3	ティーチング機能*4
オーディオ&ビジュアル機能	サウンドコンテナ	オーディオリモートコントロール+音声認識	TV(ワンセグ)	DVD/CDプレーヤー	AM/FMチューナー	AV入力端子	4スピーカー*5	

internavi LINC Premium Club (入会金/年会費不要) <http://www.honda.co.jp/internavi/>

ハイブリッド車も1.5ℓ車もリンクアップフリーに対応し、通信可能エリアが広く高速な3G回線方式を新採用。より早く、低燃費に到達できるルートを案内し、CO2削減にも貢献する、高精度・高機能サービス。

フィット シャトルのHonda HDDインターナビシステムは、ハイブリッド車、1.5ℓ車ともに(専用通信機器+通信費無料*1)の「リンクアップフリー」に対応。インターナビリンク プレミアムクラブの多彩な情報を、費用を気にせず必要ときに利用することができます。さらに、3G回線方式を採用したことで、より高速かつ広いエリアでのデータ通信を可能とし、使い勝手を高めました。リンクアップフリーによって利用が増えるほど走行データ収集量が増加し、インターナビ交通情報のルート案内がいっそう高精度化。そのデータを利用したインターナビルートの省燃費ルートを走行するクルマの増加も見込めるなど、利用者全体で燃料消費量を抑制。エコアシスト*4によるドライバーのエコドライブ意識の向上と合わせ、CO2削減にも貢献します。

インターナビ交通情報

通常のVICSに加えて、インターナビリンクプレミアムクラブ会員からアップロードされた走行データ(フローティングカーデータ)を活用し、渋滞を考慮した精度の高い、より早く到着するルートを案内。CO2削減に貢献します。

■CO2削減率(計算値)

通常ナビ	10.01kg
インターナビ	8.42kg

15.9%削減

高精度なルート案内により所要時間が短縮。平均車速がアップしたことでCO2排出量を約16%削減(東・名・阪100サンプルのシミュレーション Honda調べ)

インターナビ・ルート

ナビゲーション本体でルートをつくるのではなく高性能なインターナビ・サーバーでつくった「ルートそのもの」を配信することで、「より早く正確」というこれまでの魅力がさらに進化しました。

■省燃費ルート

収集した走行データと燃料消費データからつくられた「区間ごとの燃料消費量」情報を使って、「目的地までの燃料消費量が少ない」ルートを案内。

エコアシスト*4

ドライバーの低燃費運転を支援するエコアシストを活用することで、運転経験(回数)とともに燃費は向上し、300回目の運転時の燃費の平均値は購入直後に比べて約10%、最大で約20%改善しました。

■2009年2月6日~2009年8月31日の間にHonda HDDインターナビシステム経由でインターナビリンク プレミアムクラブのサーバーにアップロードされたインサイトユーザーの燃費データを集計 Honda調べ

リンクアップフリーによる利用者の増加

走行データ収集量が増加し、ルート案内が高精度化

省燃費ルートを走行するクルマが増加

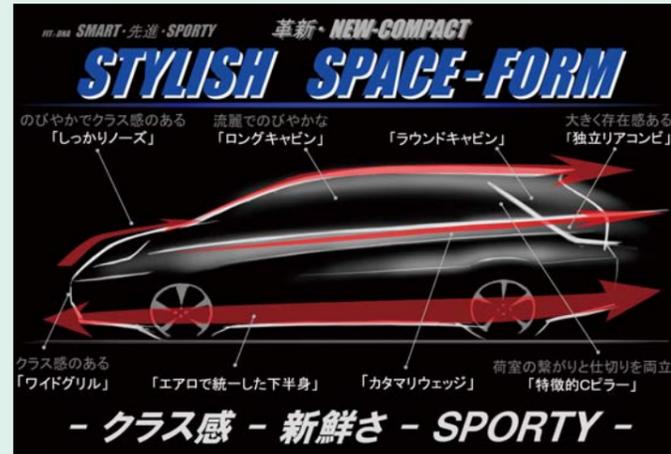
エコドライブ意識の高いドライバーが増加

リンクアップフリーを利用する多くのクルマの燃料消費量が抑えられ、CO2排出量を削減

*1 「リンクアップフリー」で通信費が無料になるのは、装備された専用通信機器でのデータ通信のみ対象となります。専用通信機器以外の携帯電話等でのデータ通信やハンズフリーテレホンによる音声通話の料金は無料の対象になりませんのでご注意ください。また、本サービスの継続には、車検時にHonda販売会社で更新手続きをしていただくことが条件となります。更新手数料はHonda販売会社で車検を受けていただきます。無料になります。Honda販売会社以外で車検を受けた場合は別途更新手数料がかかります。「リンクアップフリー」はHondaが指定する通信事業者のデータ通信サービスを利用し、Hondaが利用者にインターナビシステムのデータ通信を所定の条件下で提供するものです。したがって、本サービスの提供期間および通信可能エリア等の通信品質についてはHondaはその責任を負うものではないことを予めご了承ください。*2 VICSは、全国主要都市および全国の主要高速道路でサービスされており、順次サービスエリアが拡大されています。*3 一部の機種ではご利用にならない場合があります。*4 ハイブリッド車のみ。*5 スピーカー数は標準装備のスピーカー数との合計です。●テレビ映像、DVDビデオ再生映像等は停車時にパークングブレーキをかけなければご覧になれません。走行中は安全のため音声のみとなります。●走行中は細街路の表示およびタッチパネルによる操作が制限されます。■Bluetooth®は米国Bluetooth SIG, Inc.の登録商標です。

流麗なフォルムに堂々とした存在感を表現した エクステリアデザイン。

エクステリアデザインのコンセプトは「STYLISH SPACE-FORM」。空間のゆとりを感じさせながら、スタイリッシュで堂々としたスタイリングを目指しました。存在感のあるフロントノーズから豊かな空間を感じるロングキャビンまでを流麗なラインでつないだ伸びやかなフォルム。ウェッジ感を強めるキャラクターラインや、エアロデザインのロアまわりがスタイリッシュイメージをいっそう強めています。



車格感のあるフロントビュー。

メッキを大胆に施したワイドで立体感あふれるフロントグリルと大型でシャープな形状のヘッドライトに一体感を持たせ、存在感のある表情を実現。また、厚みのあるバンパーは両サイドのロア部が張り出したエアロ形状とし、低重心で安定したイメージをつくり出しています。



メッキカーニッシュを採用したヘッドライト



Photo:15X メーカーオプション装着車
ボディカラーはアラバスターシルバー・メタリック

伸びやかなサイドビュー。

フロントノーズに存在感を持たせた2ボックス形状を伸びやかに表現。特徴的なリアクォーターピラーの造形により、広大なラゲッジスペースを感じさせながらもスタイリッシュなフォルムを実現しました。また、抑揚のあるボディサイドの面構成やエアロ装備、ディッシュタイプでありながら立体的なスポーク形状を表現したホイールキャップがロアボディを引き締めています。



Photo:15X
ボディカラーはホライゾンターコイズ・パール

安定感と軽快感を持つリアビュー。

ボディサイドからなめらかに絞り込むとともに、傾斜を強めたリアウインドウが軽快なイメージを創出。リアフェンダーまわりの立体的な造形と大型のリアコンビネーションランプが安定感と存在感を生み出しています。



メッキハウジング、LEDを採用したリアコンビネーションランプ



Photo:15X ボディカラーはホライゾンターコイズ・パール

先進&クリーンイメージを持たせたハイブリッド専用エクステリア。

メッキにクリアブルー塗装を施し、アクリルカバーを合わせたフロントグリルをはじめ、未来感あるデザインに仕上がりました。ホイールキャップも空力特性に配慮した専用ディッシュスポークタイプとしています。



Photo:HYBRID・スマート セレクション ボディカラーはグリーンオパール・メタリック
ボディカラーのグリーンオパール・メタリックは、2011年10月生産開始予定



メッキにクリアブルー塗装を施し、アクリルカバーを合わせたフロントグリル。ヘッドライトとの一体感を強め、独自性のある表情とワイド感を表現



メッキにクリアブルー塗装を施し、クリーンイメージを持たせたヘッドライト & リアコンビネーションランプ



空力特性に配慮した専用ディッシュスポークタイプフルホイールキャップ

スタイリングをより上質に引き立てる、全9色のボディカラー。

クリーンで爽やかなイメージのグリーンオパール・メタリックをハイブリッド専用色としました。

タイプ	ボディカラー	ホライゾンターコイズパール	プレミアムホワイトパール	クリスタルブラックパール	ミラノレッド	ポリッシュドメタルメタリック	プレミアムディーブモカパール	アラバスターシルバーメタリック	タフタホワイト	グリーンオパールメタリック
HYBRID		●	●	●	●	●	●	●		●
HYBRID-C								●	●	
15X		●	●	●	●	●	●	●		
15C								●	●	

ボディカラーのグリーンオパール・メタリックは、2011年10月生産開始予定

乗り込んですぐに感じられる、上質さに満ちたインテリアデザイン。

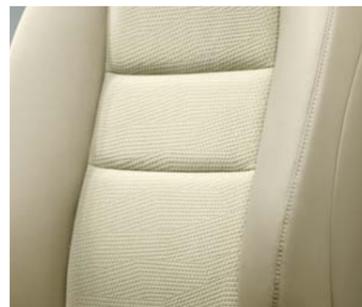
視認性や操作性といった運転の機能性に加え、乗り込んですぐに感じられる上質感を追求しました。レザー調のコンビネーションシートをはじめ、メッキパーツや塗装パーツを随所に採用。メーター照明にもこだわりました。インテリアカラーにはベージュとブラック×ブラウンを設定。落ち着いた印象のインテリアに仕上げています。



Photo:15X



ブラック×ブラウン



ベージュ

随所に施した、洗練のしつらえ。(タイプ別設定)

室内全体にわたって上質に仕上げました。インテリアパネルは革シボを施した内装色と同色仕上げ。シートやフロントセンターアームレストには、やわらかく、質感高いレザー調素材〈グランスムーズ®〉を採用しました。さらに、メーターリングやエアコンアウトレットをはじめ

各所にメッキパーツを施したほか、ステアリングホイールなどに光沢のあるピアノブラック塗装のガーニッシュ類を採用。クラスを超えた上質空間を実現しています。



視認性に優れ、上質感のあるメーター。

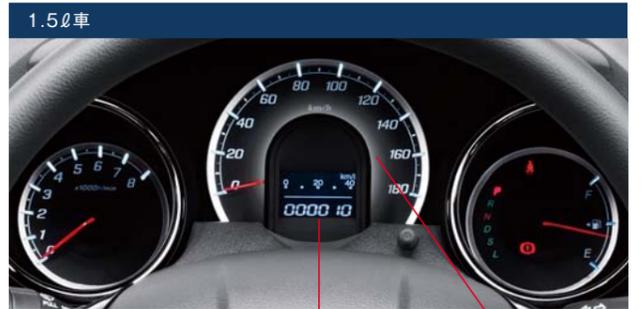
各メーターを明確にゾーン分けし、常時点灯式とした視認性のよいメーター。目盛りや表示をホワイト照明とし、メーターリングにメッキを施すことで、上質感を演出しています。また、ハイブリッド車は、照明



ハイブリッド車
アンビエントメーター マルチインフォメーションディスプレイ モーターアシスト/充電表示

エコ運転の状況を表示するECOガイドをはじめ、さまざまな情報を切り替え表示

色の変化によってドライバーにエコ運転度をリアルタイムで知らせるアンビエントメーターを備えています。



1.5L車
インフォメーションディスプレイ グラデーション照明

瞬間燃費を常時表示し、オド(積算距離)、トリップ(区間距離)、平均燃費、推定航続可能距離を切り替え表示

座り心地がよく、仕立てのよいコンビネーションシート。(タイプ別設定)

ミドルセダンレベルの質感や座り心地を目指しました。フロントシートは、ミドルクラス*車に採用されているシートフレームをベースに設計。ゆったりとしたサイズを確保し、優れたホールド性と座り心地を実現しています。表皮はフロント、リアともにセンター部にしっとりとしたスウェード調ファブリック、サイド部にやわらかく、質感高いレザー調素材〈グランスムーズ®〉を採用したうえで、表皮裏にワディング層を設けてよりソフトな触感としました。さらにサイド部にステッチを施すなど、上質に仕立て上げています。

*当社2.0-2.4Lクラス

Gransmooth®

グランスムーズ®は、セーレン株式会社とHondaの共同開発商品です。



Photo:15X

最適なドライビングポジションを提供する、ステアリングとシートの調整機構。

ステアリングポジションを前後方向と上下方向にそれぞれ調整できる、テレスコピック*&チルトステアリングを採用。調整量は、テレスコピック機構で30mm、チルト機構で40mmとしています。50mmの調整量を持つ運転席ハイトアジャスターと合わせ、最適なポジションに設定できます。

*タイプ別設定

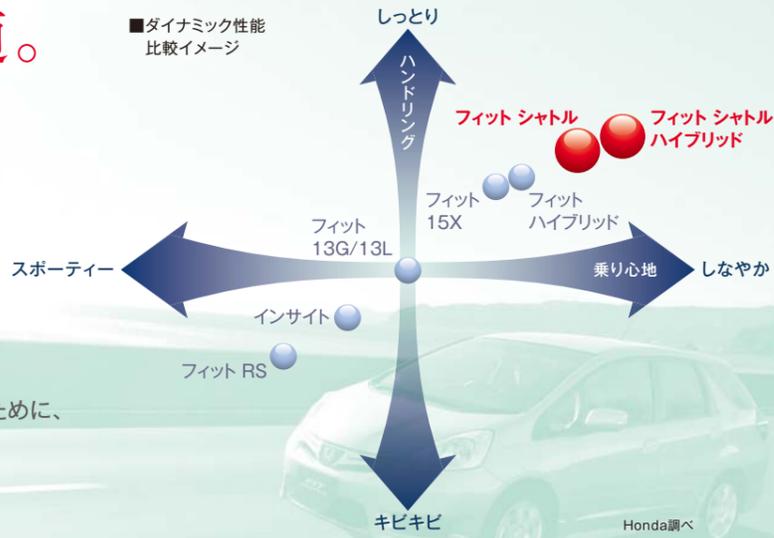


車室内
VOC*の低減

内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しにより、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンなどのVOCの揮発量を抑制しました。また、排ガス臭や花粉などの除去性能に優れたアレルフリー高性能脱臭フィルターを全タイプに標準装備し、車室内の臭いや刺激臭を軽減するとともに、VOCを厚生労働省の定めた「室内濃度指針値」以下とし、車室内の空気質を改善しています。 *VOC(揮発性有機化合物): Volatile Organic Compounds

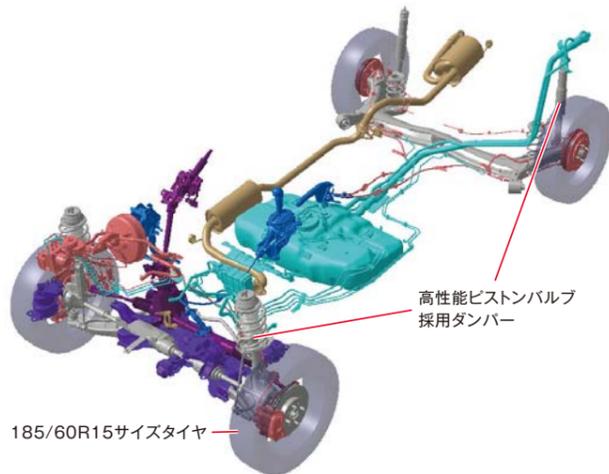
ロングドライブも快適。 上質な乗り味と 優れた静粛性。

週末のレジャーなど
長距離の移動でも高い快適性が得られるように、
乗り心地や静粛性にこだわりました。
高いボディ剛性を確保したうえで 上質な乗り味とするために、
しっとりとしたハンドリング、
しなやかな乗り心地にセッティングしました。
静粛性もミドルセダンレベルを目指し、
防音・防振対策を徹底しています。



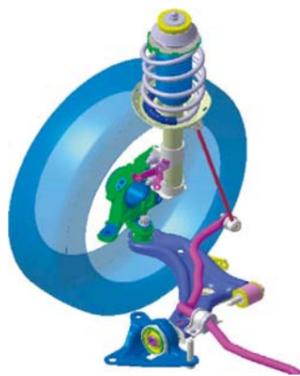
さまざまな路面で優れた乗り心地を発揮する サスペンションセッティング。

バランスに優れたフィットのシャシーをベースに、さらに乗り心地を高めるセッティングを施しました。まず、ワイドタイヤを採用し、ワゴンボディをしっかり支える高いスタビリティを確保。フロント、リアともに微小入力時の応答性に優れた高性能ダンパーを採用し、スプリングレートを最適設定しました。これにより、市街地など一般的なアスファルト路面での細かな振動を大幅に低減。さまざまな路面において優れた乗り心地を発揮するとともに、高い操縦安定性も確保しています。



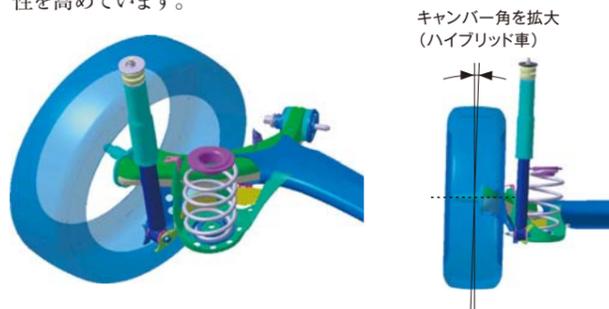
フロント・マクファーソン・ストラット式 サスペンション

スペース効率に優れたマクファーソン・ストラット式を採用。直進性ととも旋回時の安心感を高めるセッティングとしたうえで、L型ロアアームを採用し、コンプライアンスブッシュを最適に配置。これにより低バネレートのブッシュを採用でき、高性能ダンパーと合わせて操縦安定性と乗り心地を高次元で両立しています。



リア・トーションビーム式サスペンション

コンパクトでラゲッジスペースの低床化に大きく貢献するH型トーションビーム式を採用。高性能ダンパーや大型コンプライアンスブッシュを採用し、優れた乗り心地を獲得しました。また、たくさんの荷物を積んだ場合でも安定感が得られるよう、取り付け部の剛性を高めたほか、ハイブリッド車ではキャンバー角を拡大。コーナリング時の安定性を高めています。



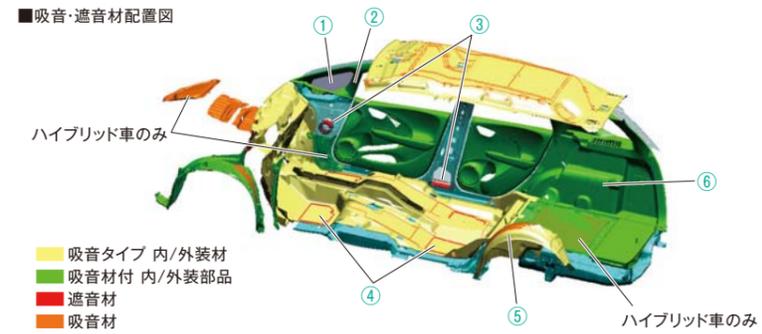
乗り心地と走りを高めるワイドなタイヤを採用。

185/60R15サイズのタイヤを採用。乗り心地や操縦安定性を高め、制動性能の向上にも貢献しています。なお、ハイブリッド車には低燃費に寄与する、より転がり抵抗の低いタイヤを採用しています。

ミドルセダンレベルの静かさを目指して徹底した防音処理。

ボディやシャシー各部の剛性を高め、ノイズの原因となる振動の室内への伝達を抑制したうえで、遮音材や吸音材を効果的に配置。特にリアまわりの防音処理を徹底し、前席、後席ともに優れた静粛性を実現しました。ハイブリッド車は、モーターアシストによりエンジン回転数を低くできるため、いっそう静かな走行を可能としています。

■吸音・遮音材配置図



■静粛性比較イメージ



フィット 15X / フィット ハイブリッドに 対する追加・変更箇所

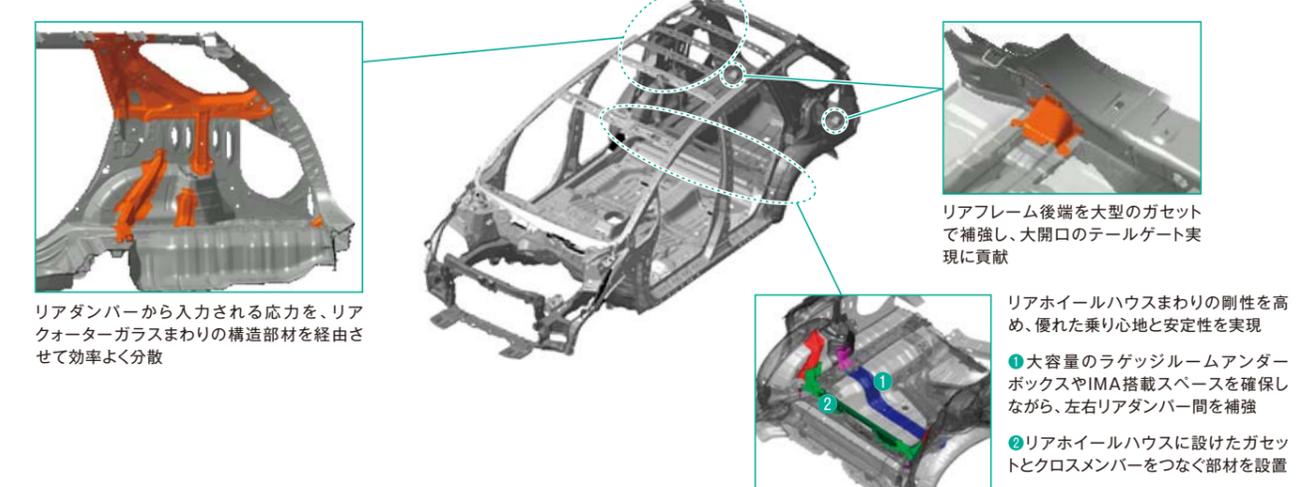


大容量のラゲッジスペースと上質な乗り心地を支える、高剛性ボディ。

軽量で強度の高いハイテン材 (高張力鋼板) や多角形断面形状部材を採用し、結合強度も高めることで、効率よく高剛性のボディ骨格を形成。そのうえで、リアまわりを中心にIMAの搭載を考慮した

効果的な補強を施しました。これらにより、大容量のラゲッジスペースや大開口のテールゲートを生み出すとともに、優れた乗り心地と安定感のある走りを実現しています。

■ボディ高剛性化説明図



いっそうの便利・快適・安心をもたらす多彩な機能。

いっそうの開放感をもたらす

スカイルーフ。(タイプ別メーカーオプション)

前後935mm×左右720mm(内寸)の大型ガラスを採用したスカイルーフ。プライバシーガラスと高熱線吸収/UVカット機能付ガラスの合わせガラスを使用し、紫外線や暑い日差しにも配慮。一年を通じて開放感のある景色を楽しめます。また、スイッチひとつで開閉する電動サンシェードも備えています。ガラスは固定式 数値はHonda測定値



バック時の視界をサポートする、バックモニター付オーディオ。(タイプ別メーカーオプション)

オーディオに4.3インチの液晶カラーモニターを装備。バック時に車両後方を映すほか、オーディオ画面やアナログ時計なども表示できます。さらに、USBジャックを備え、音楽ファイルを保存したUSBメモリーや携帯オーディオプレーヤー*1などを接続可能。オーディオリモートコントロールスイッチも装備されます。

*1 一部のデジタルオーディオには対応できないものがあります。

- 4.3インチ液晶カラーモニター
- カラーリアカメラ
- オーディオリモートコントロール
- CDプレーヤー
- AM/FMチューナー
- iPod®対応USBジャック
- 全画面時計表示
- AV入力端子
- 4スピーカー*2
- ETC車載器

*2 スピーカー数は標準装備のスピーカー数との合計です。■iPod®は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。



キーを出さずに施錠/解錠できる、Hondaスマートキーシステム。(タイプ別設定)

Hondaスマートキーを携帯することで、キーを出さずにドアやテールゲートを施錠/解錠でき、さらに、キーを挿さずにエンジン始動も行えます。雨の日や荷物の多いときにも便利です。

■Hondaスマートキーシステムは、施錠/解錠の時に電波を発信します。その際、植え込み型心臓ペースメーカー等の医療用電子機器に影響を与える可能性があります。



低燃費走行にも貢献するクルーズコントロール。(タイプ別設定)

アクセルペダルを踏まずに設定した車速で定速走行。ステアリングホイールに設置したスイッチで容易な操作が可能です。また、無駄な加速・減速を抑えるため、燃費向上にも貢献します。



上質な音色のダブルホーン。(タイプ別設定)

高音低音2つのホーンを組み合わせた、ダブルホーン。取り付け部の剛性を高め、すっきりとした上質な音色を実現しています。

福祉車両

助手席回転シートを設定。

(15X、HYBRID・スマートセレクションに設定)

- レバー操作で簡単に助手席を外側に回転
- 乗り降りしやすく、座り心地も快適な専用シート
- つま先がドアにあたりにくい、ゆとりの足もとスペース



シートが回転して乗降をサポートします
助手席回転シート車



Photo:HYBRID・スマートセレクション メーカーオプション装着車
ボディカラーはグリーンオパール・メタリック
ボディカラーのグリーンオパール・メタリックは、2011年10月生産開始予定

高水準の安全性能・環境性能。

安全性能



VSAを全タイプのFF車に標準装備するなど、より高い安全性を追求。

リアルワールドでの衝突安全を見据えたHonda独自のGコントロール技術により、「自己保護性能の向上」と「相手車両への攻撃性低減」を両立したコンパティビリティ対応ボディを採用。万一の際、歩行者にダメージを与えやすいボディ前部は、衝撃をやわらげる構造としています。そのうえで安全装備を充実させました。

- クルマの横すべりなどを抑制するVSAをFF車に標準装備
- 後方からの衝突時に頸部の負担を軽減する、頸部衝撃緩和とフロントシートを全タイプに標準装備
- リア中央席のヘッドレストと3点式シートベルトを全タイプに標準装備



頸部衝撃緩和とフロントシート リアヘッドレスト(3席)+リア3点式ELRシートベルト(3席)

主な安全装備

[アクティブセーフティ]

- VSA(車両挙動安定化制御システム)(タイプ別設定) ●EBD付ABS
- ディスチャージヘッドライト(HID)(ハイ/ロービーム、オートレベリング/オートライトコントロール機構付)(タイプ別設定)

[パッシブセーフティ]

- 運転席用&助手席用SRSエアバッグシステム
- 前席用i-サイドエアバッグシステム(助手席乗員姿勢検知機能付)+サイドカーテンエアバッグシステム(前席/後席対応)(タイプ別メーカーオプション)
- 頸部衝撃緩和とフロントシート ●頭部衝撃保護インテリア
- フロント3点式ロードリミッター付プリテンションナーELRシートベルト
- リア3点式ELRシートベルト(3席) ●リアヘッドレスト(3席)
- 汎用型ISOFIXチャイルドシートロアアンカレッジ(リア左右席)+トップテザーアンカレッジ(リア左右席)

環境性能

全タイプ、国土交通省「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定を取得。



「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定車表示マーク
平成17年排出ガス規制のNMHC、NOxについて基準値を75%以上下回る優秀な環境性能を達成した車両に与えられます。

「平成22年度燃費基準+25%」を達成。

(ハイブリッド車、1.5ℓ車(FF))



「平成22年度燃費基準+25%達成車」表示マーク
平成22年度燃費基準を25%以上上回る優れた燃費性能を達成した車両に与えられます。(ハイブリッド車、1.5ℓ車(FF))



「平成22年度燃費基準+20%達成車」表示マーク
平成22年度燃費基準を20%以上上回る優れた燃費性能を達成した車両に与えられます。(1.5ℓ車(FF 16インチアルミホイール装着車))



「平成22年度燃費基準達成車」表示マーク
平成22年度燃費基準を上回る優れた燃費性能を達成した車両に与えられます。(4WD車)

クルマ全体でリサイクル可能率90%以上*を実現。

*[新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン(1998年 自工会)]に基づき算出。

リサイクル材の使用を推進。

日本自動車工業会の定める環境負荷4物質自主削減目標を達成。

- 鉛：2006年1月以降1996年レベルの1/10以下に削減
- 水銀：2005年1月以降使用全廃
- 六価クロム：2008年1月以降使用全廃
- カドミウム：2007年1月以降使用全廃

環境仕様		DAA-GP2		DBA-GG7		DBA-GG8		
基礎情報	車両型式	LDA-MF6		L15A				
	エンジン	1,339		1,496				
環境性能情報	燃料消費率	JCO8モード	燃費(km/ℓ)*1	26.0	25.0	18.6	18.0	
		CO ₂ 排出量(g/km)(燃費からの換算値)	89.3	92.9	124.8	129.0		
	10-15モード	燃費(km/ℓ)*1	30.0		20.0	19.2	16.4	
		CO ₂ 排出量(g/km)(燃費からの換算値)	77.4		116.1	120.9	141.6	
	排出ガス	適合規制・認定レベル	平成22年度燃費基準+25%達成車					
		JCO8H+JCO8Cモード規制値・認定値等(単位:g/km)	CO	1.15	平成17年排出ガス基準75%低減			
			NMHC	0.013				
			NOx	0.013				
		低公害車指定制度	九都県市低公害車指定制度を取得。(4WD車、16インチアルミホイール装着車を除く)					
		適合騒音規制レベル	平成10年騒音規制 規制値:加速走行76dB(A)					
	エアコン冷媒使用量	種類:代替フロン134a 使用量:420g						
	車室内VOC	自工会目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)						
	環境負荷物質削減	鉛	自工会2006年目標達成(1996年使用量**の1/10)					
		水銀	自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止*)					
		六価クロム	自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)					
		カドミウム	自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)					
環境への取り組み	リサイクル	樹脂、ゴム部品への材料表示	100g以上の樹脂部品全て					
		リサイクルしやすい材料**を使用した部品	ウィンドウモール類、バンパーフェースなどの内外装部品					
		再生材を使用している部品	アンダーカバー、スプラッシュガード、スプラッシュシールド、バッテリーカバー、バッテリーボックス、吸音材					
		リサイクル可能率	車全体で90%以上*					
		ポリ塩化ビニル禁止部品	ボディアンダーコート、外装モールなどでの廃止					
		その他	グリーン購入法適合状況					

*1 燃費消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃費消費率は異なります。なお、JCO8モード走行は10-15モード走行に比べ、より実際の走行に近くなるように新たに設けられた試験方法で、一般的に燃費消費率はやや低い値になります。*2 1996年乗用車の業界平均使用量は1850g(バッテリーを除く)。*3 交通安全上必須な部品の極微量使用を除外。*4 ポリプロピレン、ポリエチレンなどの熱可塑性プラスチック。*5 「新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン(1998年 自工会)」に基づき算出。*この環境仕様書は2011年6月現在のものです。

主要装備

● は標準装備 ○ はメーカーオプション

4WD車は、2011年8月生産開始予定。

Table with columns for Type (1.3ℓ+IMA, 1.5ℓ), Drive Mode (FF, 4WD), and various equipment options like ABS, air conditioning, and infotainment systems.

※1「前席用・サイドエアバッグシステム+サイドカーテンエアバッグシステム」を装着した場合、「クラッフル(運転席用/リア左右席用) & コートフック(リア右側)」が装着されます。
※2「Hondaスマートキーシステム」を装着した場合、「電波式キーレスエントリーシステム」の機能は「Hondaスマートキーシステム」に統合されます。

主要諸元

4WD車は、2011年8月生産開始予定。

Table with columns for Type (1.3ℓ i-VTEC+IMA, 1.5ℓ i-VTEC), Drive Mode (FF, 4WD), and engine specifications, performance, and dimensions.

※1 ()内は16インチアルミホイール装着車。 ※2 ()内はHYBRID・ナビプレミアムセレクション。 ※3 メーカーオプションを組み合わせる場合の最大車両重量です。
※4 ()内はHYBRID・スマート セレクション。 ※5 ()内はスカイルーフ装着車。 ※6 エンジン始動時:92N・m(9.4kgf・m)/500rpm ※7 ()内はi-サイトエアバッグシステム+サイドカーテンエアバッグシステム装着車。

